

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	南 善子
所属機関名	生命科学部生物科学科
職位	教授
在籍年	33 年

主な担当講義科目、教育の責任

主な担当講義は、1 年生対象の基礎科目「生命科学のための生物学」(春・選択)、2 年生対象の「細胞分子生物学」(秋・選択)、「生体物質の代謝学」(秋・選択)、および「バイオサイエンス実験」(秋・選択)、「卒業研究 I・II」である。大学院講義として「分子生物学特論」(春・選択、オムニバスで 5 回分)、「特別研究 I・II」である。

教育の理念

学生の専門分野への興味を引き出し、学ぶ意欲を高めることを教育目的としている。高校で学んだ基礎を単なる知識ではなく、何故そうなるのかを考える力、つまり知恵をつけさせる。インターネットで得られる知識はもちろんのこと、教科書なども完全に正しいと捉えるのではなく、疑問に思うことが学びの基本であることを理解させたい。大学での学びを通して、社会に出たあとも、情報を鵜呑みにするのではなく、自分の中で、一度しっかりと咀嚼する習慣をつけることが理想である。

教育の方法・方針

全ての講義において、1 つ 1 つの講義 (他の教員の講義も含めて) が独立しているのではなく、知識として繋がっていくことを伝えている。また、復習することの重要性を伝えており、出来れば、講義後に自分でノートを作るように指導している。

1 年生対象の基礎科目「生命科学のための生物学」では、ノーベル賞受賞内容などのトピックスを難しい理論はさておき、一般向け講座のように興味を持って貰えるような講義内容にしている。次回の講義で、どんな内容だったか、課題として書かせ提出させることにより、知識を定着させるようにしている。

「細胞分子生物学」と「生体物質の代謝学」では、専門知識として最低限理解して欲しい内容を扱っている。講義の最初に、前回の講義内容を復習させることにより、次の講義内容に入りやすくしている。また、試験は 3 回に分けて行い、着実に理解させることを実践している。講義では、空白のあるプリントを配布し、その穴埋めをすることにより集中させるようにしている。また、プリントは講義終了後に mylog に入れ、聞き逃したことなど、あるいは、休んでしまった場合も講義内容が分かるようにしている。また、講義中に動画などを視聴させ、視覚的な理解を促している。

「バイオサイエンス実験」では、実験ノートをしっかりと書かせる。実験中のデータはもちろん、失敗したことも含め、記録を取る重要性を伝えている。また、レポートの作成では何をどのように記入するのかを解説し、わかりやすいレポート作成を促すようにしている。なお、レポートの不備は、再提出を求めている。

卒業研究や特別研究では、自ら考え実践できることが基本であると考え。そこで、学生自ら考察を行い、教員、同級生と議論することを促している。

教育の成果

「生体物質の代謝学」は内容が難しかったが、毎回の講義で開始前の復習が出来て良かったという意見が多くあった。またテストを分けたことが勉強しやすくなっているようである。「細胞分子生物学」でも同様に、復習が出来て良かった、動画で理解がしやすかったという意見が多くあった。

ただ、配布プリントが見にくいという意見もあり、さらに工夫が必要であるが、復習の効果は

あるように思える。

今後の目標

講義でプリントを配布する弊害は、それに頼りきりになり、ノート作成をしないことである。今後、自宅での復習をするように課題等に対応していきたい。

また、専門分野への興味が持てるように出来る限り難しい内容は噛み砕き、基本をゆっくりと丁寧に講義したい。

研究室では、出来る限り、議論の場を設けるように努めたい。

根拠資料

- ・ 毎回の講義プリント「生体物質の代謝学」「細胞分子生物学」
- ・ 3 回分のテスト「生体物質の代謝学」「細胞分子生物学」
- ・ 実験実習における補足資料（レポートの作成法）「バイオサイエンス実験」
- ・ 授業アンケートの結果